



## 連帯して2026春闘を闘おう！ 職場・地域から組織拡大を勝ち取ろう！ 第39回定期中央委員会開催

JR東海労は2月11日、名古屋市内で第39回定期中央委員会を開催しました。冒頭、急逝した組合員の松永（旧姓清水）正春さんのご冥福を祈り、黙祷を捧げました。議長に、名古屋地本の丹羽中央委員を選出し、議事を進めました。

淵上委員長は、挨拶で「JR総連によるJR東海労解散方針を許さず、労働者の連帯を目指し闘ってきた。その大きな柱が、JRひがし労との連帯であり、JRひがし労の闘いを学んできた。結節点として、10・15集会を開催した。更に、連帯した取り組みを強化する。JR東海労の闘いに支援・連帯していただく方々を結集する組織の結成を目指す」と、訴えました。

来賓では、JRサービック労働組合柳楽委員長、JRSE労働組合山本委員長、本部OB会増田会長より挨拶を受けました。

質疑では、「サービック労組（御用組合）を脱退し、JS労組合員として闘う決意をされた組合員を歓迎し共に闘う」「高市政権による戦争をする国づくりを許さず闘う」「JR総連運動は民同以下に変質した」「診断書強要行政訴訟の勝利で、会社に団交開催の闘いをつくり出している」「組織展望をかけて組織拡大の闘いを進める」などの発言がされました。

今春闘で、JR東海はベア20,000円、定期昇給6,000円（基準昇給額1,500円乗数4）、夏季手当3.8ヶ月、医療法人はベア13,000円、夏季賞与1.5ヶ月などの要求を柱とする活動方針を全体で確認しました。

本橋書記長は、総括答弁で「JS労における組織拡大に学び、更に組織拡大を目指そう。労働者支援相談センターには多くの電話・メールが寄せられた。JR東海労が駆け込み寺となっている。各地本での連携を強化する。今春闘では、JRひがし労と連帯し、統一要求を掲げ闘おう」と、訴えました。

